



TOHOKU
UNIVERSITY

第 6 回 生命科学 web セミナー

(第 39 回 植物分子育種分野 生命科学セミナー(兼))

(生命科学研究科単位認定セミナー：2 ポイント)

日時：2021 年 12 月 16 日 (木) 15:00～16:30

稲葉 靖子 准教授

(植物分子育種分野／宮崎大学農学部)

キャリアにこだわりこだわらず築いてきた これまでの研究人生を振り返って思うこと

学部 4 年で研究室に配属され、ようやく自分の居場所を見つけた安堵感が、大学院進学を決めた大きな理由でした。あれから 20 年が経ち、私は現在、地方国立大学の教員として植物の研究と教育に携わる仕事をしています。学生の頃は、ひたすら眼前の研究に集中する毎日でしたが、ポスドクとして仕事をするようになってからは、研究以外の道を模索したこともありましたが、研究職に付いていない時期もありました。研究者にとって、そして特に女性の場合、様々なライフイベントと格闘する中で自分の研究を続けていくということは、実に変なことです。ただ一方で、研究というのは本来、楽しい要素が満載で、私自身、研究から生きるパワーをもらうことも数多くありました。

今回のセミナーでは、私の研究人生を振り返り、自分の研究キャリアに影響を与えた人・言葉・出来事を中心に、現在の職に付く最大のターニングポイントとなった出来事や地方国立大学教員のリアルな日常なども交えて、お話ししたいと思います。

問い合わせ先：生命科学研究科・植物分子育種分野・渡辺
(nabe@ige.tohoku.ac.jp) までお願いします。

Supported by

新学術領域研究「植物新種誕生の原理-生殖過程の鍵と鍵穴の分子実態解明を通じて-」

挑戦的研究(萌芽)「農業生態系を構築する植物個体と群落を橋渡しする分子機構の解明による環境調和型農業」

基盤研究 (B)「歴史史料・考古資料活用による次世代作物資源の多様性構築に向けた学際的研究」

基盤研究 (B)「アブラナ科育種素材の多様化に対応した受粉反応評価軸の再構築と分子基盤」



研究対象である発熱植物ソテツが自生する宮崎県・都井岬にて (2014 年に撮影)。

植物新種
誕生の原理